

聖化

Japan Holiness Association

〔発行〕日本聖化協力会

2012.4.25
No. 51



危機の中で きよめに生きる

日本聖化協力会副会長

松沢 力男

二十一世紀の危機

世界には経済や国家体制の危機やまた核と拉致などをめぐる北朝鮮問題や地球温暖化等の多くの難題があります。

また、日本においても、政治や経済の問題、人口減少、君が代斉唱時における起立強制による良心の自由への侵害、東日本大震災や原発事故の復興、検事が検事を訴える歪んだ裁判や牧師の性的犯罪、キリスト教会のカルト化、異端による熱心な伝道活動等の問題があります。

しかし、イエスさまはこう言われました。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出さない。わたしはすでに世に勝っている。」（ヨハネ一六・33）とある通りです。

きよきに召された私たち

不正がはびこり、悪が教会の中に入りこもうとしていきます。このような中で私たちはきよきに召されたのです。「神がわたしを召されたのは、汚れたことをするためではなく、清くなるためである。」（1テサロニケ四・7）とある通りです。

不可能を可能にする神を信じる私たち

「キリストと共に死に、共に生かされる」という経験をし、その信仰に生かされているのが、きよめられた私たちであります。この全能の神への信仰を私たちの信仰生活や様々な問題にも当てはめるべきです。絶望が希望に変えられるのです。

愛され愛する者とされた私たち

「聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれている」（ローマ五・5）とあるように、聖霊に満たされることは神の愛に満たされることです。その神の愛に答えて神と人に仕えていくのです。それはすべてを忍び、すべてを信じ、すべてを耐える者とならせます。

キリストの証人とされた私たち

「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、わたしの証人となります」（使徒一・8）。ジョン・ウェズレーは聖霊に満たされて熱心に伝道しました。人々を愛し、罪の赦しときよめを語り続けました。私たちも見倣いたいものです。

もくじ

- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 論説：今後の JHA—方向性と発展性… p.2-3
- 証し：きよめの試金石…………… p.4-5

- ロダール博士紹介、著書の紹介…………… p.6
- 新刊企画、本の案内、評議員会報…………… p.7
- 2012 年度聖化大会、編集後記…………… p.8

論説

今後の JHA— 方向性と発展性



日本イエス・キリスト教団香登教会 工藤 弘雄

「今後の JHA—方向性と発展性」というテーマを与えられ、日本聖化協力会第5回評議員会で発題の機会を得ました。ジョン・ウェスレーは聖書が語る「キリスト者の完全」の恵みをメソジストに与えられた「大いなる供託物」(グラント・デポジタム)と言いました。それは、メソジストと言われるキリスト者の一グループだけが享受すべき恵みではなく、キリスト教会全体への神からの供託物であるとの自覚から来るものでした。JHAにある重荷と使命もここにあります。それは、「聖書のホーリネス」という神からのグラント・デポジタムを全キリスト教会で共有し、享受したいとの重荷と使命です。ですから、JHAは必然的に超教派性を有することになるのです。

I JHAの特質を知る

1 聖化の信仰基準の明確性

JHAの特質の最たるものは聖化信仰が明確に表明されていることです。「本会は、神の恩寵により、信仰と全き献身を条件としてもたらされるキリスト者の第二の転機としての全的聖化を告白する。それはすべての罪から

の瞬時的な潔めと全き愛を意味する聖霊のバプテスマであり、さらに、聖霊のご支配のもと、生涯を通じてキリストの似像にまで成長できることを信仰基準とする」(本会規則第4条)。この信仰基準は、聖化信仰をほぼ網羅しています。全的聖化における神の恩寵性と人間の応答性、その転機性と成熟性、その消極性と積極性が対立的でなく協調的に告白されています。特に、聖化の消極面を「すべての罪からの瞬時的な潔め」と表し、積極面を「全き愛を意味する聖霊のバプテスマ」と表明していることは注目に値します。

2 地域組織の拡充

JHA規則第3条・目的、第5条・活動及び事業には、「本会は、聖書的な聖化の信仰の宣証、究明、普及を旨とする全国各地の同志、『地域別聖化交友会および、その目的と信仰主張を同じくする者等』と教会、教団、教派及び宣教団体、諸団体の連絡中枢として、交わりと協力を推進することを目的」とし、その目的達成のために「地域別組織を育成、助成し、その相互連絡を伴う活動を行う」となっています。現在、北海道、宮城、山形、栃木、関東、

東海、大阪(「J・ウェスレーに学ぶ会」、岡山、四国、九州の10地区に交友会が組織化され、その活動は定着しています。注目すべきことは、地域交友会に参加している教会、個人の教派的広がりです。岡山を例に取れば、参加25教会中、日本福音連盟(JEF)加盟教団に属する教会が19教会、2教会がJHA加盟教団です。さらに地域活動が拡充し、聖化の宣証、究明、普及の働きが網の目のように日本全国に張り巡らされることが期待されます。

3 出版事業の継承と発展

福音文書刊行会(EPA)の果たした役割をどんなに大きく評価してもし過ぎることはありません。この事業がJHAに受け継がれたことは、「聖書的な聖化の信仰の宣証、究明、普及を旨とする」本会の目的にかなっています。できれば翻訳書と共に日本人による力作が大いに期待されるところです。

4 大会プログラムの多様性

大会の中心は聖会です。それと共にセミナーや交わりは大会ならではのバラエティをもたらします。関東聖化大会を例に取れば、聖会を主軸に、講演、青年大会、女性大会、学びを深めると

2012年3月5日、東京お茶の水 OCC 会議室で開催された日本聖化協会第5回全国評議員会で、工藤弘雄先生から「今後のJHA—方向性と発展性」と題して講演がなされました。ここに改めてその要旨を工藤先生にまとめていただきました。

講演のあと、出席した評議員から活発な意見が出され、たいへん盛り上がりました。教団を超えて率直に、活発に意見交換をした初めての機会であったかも知れません。結論や決定があったわけではありませんが、今後のホーリネス運動にとって大切な一歩であったと感じました。

き、歓迎レセプション、神学校交歓会、舎監の交わり、教役者の交わりなど有意義な集いが満載されています。

Ⅱ JHAの方向性と発展性

1 内部の拡充

- (1) 加盟団体の増加。前述のように地域交友会において広がりを見せていますが、教团的加盟の増加が望まれます。
- (2) 地域大会の充実。信徒的レベルを重視すれば、主軸はやはり聖会です。
- (3) 多角的出版事業。松沢師の提案にあるように日本人著者を含め、霊的、神学的な多角的な出版が期待されます。当面、「ホーリネス宣証のメッセージ集」の取り組みが開始されています。
- (4) 信仰基準の解説書。これはJHAの内部充実の要です。それは本会の目的にある「聖化の信仰の究明」にも準じます。当面、役員会が責任を持ち、さらに神学部門の設置が期待されます。
- (5) 全国大会の開催。松沢師の提案のように、まずは設立30周年大会に向けて具体的な準備が開始されています。
- 2 周辺組織、運動との交わりと協力
本会規則3条や11条では、信仰主張を同じくする教会、教団、諸団体の「連

絡中枢として、交わりと協力を推進する」こと、また「全国評議員会の議決により、信仰主張と目的を同じくする国内、国外の他の団体と協力、提携することができると謳われています。JHAの周辺にはホーリネス信仰を標榜する日本福音連盟(JEF)、日本ケズイック・コンベンションなどの組織や運動があります。こうした組織や運動との交わりや協力を具体的に可能なところから実践したいものです。

(1) 機関誌などによる情報交換。JHAの「聖化」誌は巻頭言、論説、証し、書評、大会、交友会ニュースなど、実に充実しています。これを加盟団体以外の諸教会、諸団体事務所に必要部数送付する。また、JEFの「時報」や「ケズイック・ニュース・レター」も同様にしていただく。

(2) 人的交流。関東聖化大会の歓迎レセプション、神学校交歓会などはお手本。加えて、JHA役員会とJEF理事会の交流を模索する。

(3) 協力参加。JHAの大会、JEFの総会、大会、またケズイック聖会などのため相互に祈り、協力参加する。

(4) 加盟。勢力拡大の意図でなく、各組

織、団体に各教団、教会が加盟する。(5) 大いなる夢、幻。日本ホーリネス連盟設立。現組織の上にか、あるいは発展的な何かによってか。それが叶わなくても、日本のホーリネス陣営あげて、主のみ旨を求め、主のご統御の下に、日本伝道会議レベルの「日本ホーリネス大会」を10年に1度でも開催を！

*

以上の発題に対し竿代照夫師の座長のもとで活発な意見交換がなされました。評議会議事録に基づき要約すると以下のようです。

▼JHAへの加盟メリットがハッキリしていないのでは？ ▼JHAの信仰基準、またはウェスレーの「キリスト者の完全」の解説文発行の必要性 ▼JHA、JEF、JEA、ケズイックへの加盟にはそれぞれ教団・教派の歴史的背景の違いによって意識が異なるのは当然 ▼JHAの加盟規定では単一の教会は個人単位でしか加盟できないことになっているのではないか ▼聖化の恵みが末端の信徒に届くことが最も大切ではないか。

主が起こされたJHAの使命と重荷を確認し、本会の発展を祈るものです。

「それは『わたしは聖であるから、あなたがたも、聖でなければならぬ。』と書いてあるからです。」

(Ⅰペテロ一章16節)

中学三年の秋(一九六二年)、はじめて私は教会に導かれ、生涯の霊の父となってくださったR・シエルホン先生と出会いました。その一か月半後の十月十四日、恩師の橋本幸夫先生より与えられた聖句、Ⅱコリント五章17節のみことばを信じて救われました。それまでの私は自分を棚に上げて両親や学友を批判していた者でした。そんな私が最も罪深い偽善者だと示され、悔い改めて十字架の救いを信じたのです。その日以来、言い表すことのできない平安を覚え、献身したいとさえ思いました。ある晩、父が帰宅するなり、教会へ行くのは止めろと怒鳴り、私のほほを殴りました。即座に「お父さん、聖書に右のほほを打たれたら、左のほほも出せ、と書いてあるから、こっちも殴ればいい」と生意気にも片方のほほをつき出すと、父は「貴様、聖書をそんな風に理解しているのか!」と言い放ってさらに殴りつけるのです。その後もよく父の鉄拳を受けたのです。

そのような中でも献身への思いは揺らぎませんでした。ただ、その土台とも言うべき信仰は恥ずかしいほど肉感的でした。信仰を持って二年目に私は自分のうちにある心の汚れを痛いほど感じました。「おまえ、それでもクリスチャンか」とどれほど自問自答したかしれません。こうしてきよめを渴望して真剣に求め始めました。そんなおり、安息日厳守のことで父から家を追い出され、シエルホン先生のところに下宿することになりました。数

きよめの証し

きよめの試金石



チャーチ・オブ・ゴッド

川崎キリスト教会 古波津 保秀

週間過ぎた頃、再び将来のために一週間の予定で朝食断食をしていた三日目の朝、主より使徒九章15節をもってご召命を頂き、主に私の生涯をお渡ししました。続けて翌年の新年聖会で求め続けていたきよめの恵みに預かりました。「我、聖なれば、(古波津よ) なんじ(ら)も聖なるべし。」(Ⅰペテロ一章16節)と確かなる主のお声でした。その恵みを受けて最も強く感じたのは、主の大いなる臨在でした。また聖書のおことばの力でした。今までどうしようもないほど、内的な汚れを覚えていましたが、それさえ主がきよめてくださると知りました。

しかし、私のきよめの恵みもまた献身も今思い返すと三つの試金石で研がれて来たように思います。ことにきよめの体験はその後も落としたというべきか、その恵みから脱線したと言うべきか、そんなことが何度かありました。しかしその都度、私の心にある指針は「かしこにきよき大路あり」でした。一度走ったことのあるハイウェイは常に脳裏にあります。その味わいを知った者にはそれしかないのです。恵みの取り扱いで何度もそのハイウェイに引き戻されましたが、決定的であったのは三つの試金石です。それは「自分」「家庭」「任地」です。その点を順不同で記させて頂きます。

その第一の試金石は「家庭」です。そのテストは結婚して三か月目にやって来ました。なんと不遜にも家内との年の差が妙に気になり始め、だんだん深刻な課題となり、これは絶対夫婦の危機になると感じました。そのためその年の修養会では信徒のことはお委ねし、主のお取り扱いを求め続けました。最後の晩、主は私を捉え、電

光石火のごとく「愛は恐れなし。全き愛は恐れを除く。」（「ヨハネ四章18節」と語ってくださいました。すぐに家内にお詫びし、私は全き自由を回復しました。

第二は「任地」です。結婚して最初の開拓に任じられ、御幸教会の開拓が始まりました。五度目の新年を迎えた元旦早朝、主は素晴らしい幻を示してくださいました。ところがそんな希望と夢に溢れつつ前進していた矢先、シエルホン先生より、この春に石川県津幡^{つばた}教会の任命の内示を受けたのです。その日、私たちは呆然と過ごしました。夫婦で祈る気力もありません。「私は漁に行く」と言ったペテロではありませんが、思わず家内にレストランで食事でもしようかと誘い、小さな子ども二人を連れて行きました。しかしそんな食事が美味しいはずがありません。まさにホセアの言う「生焼きのパン菓子」状態で石川県津幡に赴任しました。今でも赴任したあの日のこと、車窓から眺めた北陸の風景を忘れることができません。そんな私にとって最大の慰めは家族であり、少数気鋭の信徒の一人ひとりでした。また、主は私たちを励ますために救われる人たちを加えてくださいました。しかし時折、遣わされている地に自分は一粒の麦となっていないと気づかされ、自分自身を責め続けたりしました。これでは愛する兄弟姉妹たちや北陸の人たちに申し訳ないと思い、ある時は夜も眠れず、夜通し町を歩きながら、主よ、私を用いてください。魂への愛をください、と祈ったこともありました。

四年目の秋、総動員伝道の締めくくりともいふべき県下合同の修養会が持たれたとき、講師の本田弘慈先生の



メッセージを聞くうちに、主は私が抱えていた問題点に、いえ私自身にふれてくださいました。メッセージのテキストはヨハネ二二章24節でしたが、みことばを語る声はもはや本田先生ではありません。それは紛れもなく主の語りかけです。「古波津よ。おまえは自分で死のうとしているから、死ねないのだよ。わたしもおまえと一緒に死んでいるではないか」元氣潑刺な本田先生とは全く好対照なほどに静かな細き主の御声でした。津幡に対する思いが完全に変えられたのは言うまでもありません。こうして北陸には計一一年間、二度目の開拓地春日井には九年間奉仕し、今は川崎の地に「ご任命を頂いております。

最後の試金石は「自分自身」です。かつて神学生時代、ご訓練のためにと遣わされたある教会の特伝終了後、牧師先生が神学生の私たちを労ってくださいって大変よいお交わりを頂いたことがあります。その席で先輩の神学生が古老の先生に「先生、牧会や伝道をする上で最も大きな課題は何でしょうか」と尋ねました。すると先生はすぐに切り返して「なんだと思う!？」と逆に尋ねられました。誰も首を傾げるばかりです。先生はにこにしながら「君たち。それは自分だよ」とおっしゃられました。皆合点がきました。今もその時の光景を忘れることができます。確かに最後に残る試金石は常に「自分自身」です。これは今も変わらぬ課題です。

きよめの試金石は、きよめの恵みがあればこそ、与えられる試金石であり、また同時にこの試金石によって、主は私たちのきよめの恵みの確かさと豊かさを教えてくださるものだと思うのです。



2012 年 聖化大会に講師としてお迎えする

マイケル・ロダール博士プロフィール

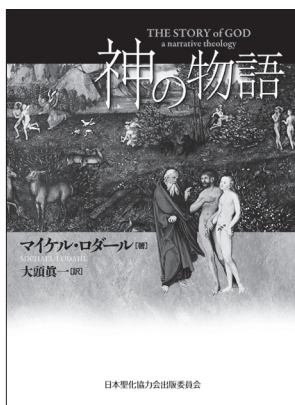
Dr. Michael Lodahl Ph.D.



今年の聖化大会に、米国ナザレンの神学者・説教者マイケル・ロダール博士をお迎えします。それに先か
けて、昨年、その著作『神の物語』が翻訳・出版されました。ロダール博士は、歴史神学・世界宗教を講
じるオールラウンドな学者で、この書にも見られるユダヤ教と東方キリスト教に関する幅広い優れた洞察をお
持ちです。

ノースウエスト・ナザレン・カレッジ、ナザレン・セオロジカル・セミナリーを経て、エモリー大学で哲学博士
号を取得。ノースウエスト・ナザレン・カレッジに続き、1999 年から現在までポイント・ローマ・ナザレン・カレ
ジ（カリフォルニア州サン・ディエゴ市）で神学と宗教学の教授として、組織神学・歴史神学・世界宗教を担当。

著書は、Shekhinah/Spirit: Divine Presence in Jewish and Christian Traditions, Embodied,
Holiness: Toward a Corporate Spirituality など多数。



聖化大会講師の著書 日本聖化協力会出版委員会 2011 年発行

神の物語 THE STORY OF GOD

マイケル・ロダール著 大頭眞一訳

352 ページ 定価：3,500 円＋税

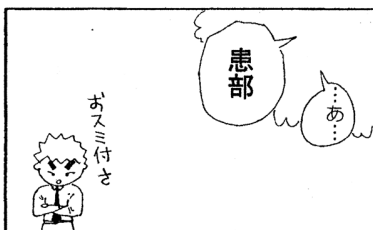
● ● ● 『神の物語』は、ウェスレアン神学を現代に語る、新しい組
織神学の教科書です。物語神学の切り口で、聖書に流れる
一貫した聖化のメッセージを提示してくれます。

書評 藤本 満（インマヌエル高津教会）

聖化を学び、生きようとする私たち
ですが、聖書の教えを離れて、どこか
教義的に聖化を捉えてしまうことで、
教会が傷つき、聖化の教えそのものが
傷つくことを体験してきました。この
書は題名が示すように、神学を聖書の
物語で解説していくという手法を用い
て、聖書の物語に慣れ親しんでいる私
たちに説教を語るかのようにして、領
きを与えてくれます。「難しい神学も、
こうして読むと心に届くよ」と言わん
ばかりに、聖書を解き明かしながら、
神学の主題・神学の課題へと私たちを
連れて行ってくれます。

この書のもう一つ魅力は、ウェスレ
アンの立場を大胆に現代に生かすこと
に情熱を燃やしていることです。ウェ
スレアン神学の立場で、現代のさまざ
まな課題を意識しながら神学を語るの
は至難です。著者は、歴史神学・世界
宗教を講じるオールラウンドな学者と
して、それを見事に描き出しています。
神が人を創造し、人の罪に傷つけられ
ながらも、人と共に働いて世界を贖い、
やがてそれを完成されるという物語に
よって聖書全体を概観し、教会歴史の
豊かな広がりを描いています。

直次郎



©富無尽蔵

New Books

出版新企画のご案内

聖書に根ざしたきよめを追求

ホーリネス・メッセージ集

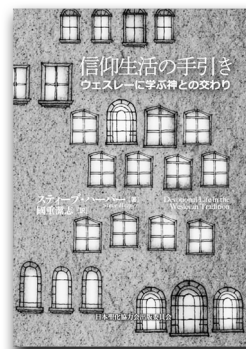
刊行準備中!

好評を博した『ホーリネス——牧師15人のメッセージ』発行から9年、私たちの身近な先生方によるホーリネス説教集を求める声が多く寄せられています。

出版委員会では、それにお応えるため、新しい企画を準備しています。今回は、聖会などの説教で取り上げられることの多い聖書箇所から、ホーリネス・メッセージを語っていただきます。出版まで少し時間がかかりますが、ご期待ください。

信仰生活の手引き

ステイブ・ハーパー 著

國重潔志訳
一、三〇〇円＋税

*信仰生活のためのガイドブック

日々のデイポーシジョン（神との交わり）を形作るために——ジョン・ウェズレーから「恵みの手段」を学ぶ——二十一世紀に生きる私たちへの「信仰生活の手引き」。

日本聖化協力会 第5回評議員会

新会長に竿代照夫師を選出

2012年3月5日（月）OCC会議室



3月5日、全国の地域別聖化交友会、加盟教団の代表、加えてJH A役員が一堂に会し、第5回評議員会を開催しました。

各地域で活発に行われている聖化交友会の報告をお聞きしました。課題はさらに広く地域教会に働きかけ参加を促すこと、また海外からの聖会講師に北日本にも行っていただけるような対応を考えることなどが検討されました。出版活動は、ホーリネス説教集の発行が確認されました。

午後の講演は、工藤弘雄師から「今後のJH A—方向性と発展性」と題して語っていただきました。

役員選挙では、新会長として竿代照夫師が選出されました。

2012年度 各地の聖化大会

	大会名	期日	講師	会場
札幌	第5回 北海道聖化大会	5/22~23	横田武幸師	北海道クリスチャンセンター
宮城	第24回 仙台聖化大会	10/8	工藤弘雄師	日基 仙台青葉荘教会
山形	第17回 山形聖化大会	9/17	黒木安信師	兄弟団 米沢教会
栃木	第16回 栃木聖化大会	5/20	竿代照夫師	IGM 宇都宮教会
関東	第8回 春の青年大会	6/3	錦織 寛師	IGM 中目黒教会
	第27回 関東聖化大会	10/14~16	M・ロダール師	WH 淀橋教会
遠州	第16回 遠州聖会	2/26	川崎 豊師	IGM 浜松教会
東海	第19回 東海聖会	6/23~24	岩本助成師	名古屋一麦教会
	第25回 東海聖化大会	10/18	M・ロダール師	IGM 名古屋教会
大阪	第62回 Wに学ぶ会	5/29	坂本 誠師	救世軍 セントラルホール
	第63回 Wに学ぶ会	10/19	M・ロダール師	ナザレン大阪桃谷教会
岡山	第10回 備前聖化大会	10/21	M・ロダール師	日本イエス 香登教会
四国	第5回 四国聖化大会	5/27	岡田信常師	高松新生教会
九州	第23回 九州聖化大会	10/23	M・ロダール師	兄弟団 福岡教会

* 聖化大会についての詳細は、日本聖化協会のホームページをご覧ください。各地域の聖化交友会のご案内が掲載されています。http://jha.christ.gr.jp/

お近くの聖化交友会にご加入ください

聖化交友会には教会、あるいは個人でお加わりいただけます。聖化の恵みを教会に、お住まいの地域に広げていきましょう。詳細は各地域の聖化交友会にお問い合わせください。

北海道聖化大会／宮城聖化交友会／山形聖化交友会／栃木聖化交友会／関東聖化交友会／東海聖化交友会／ジョン・ウェスレーに学ぶ会／岡山聖化交友会／四国聖化交友会／九州聖化交友会

みことばに導かれて 日々の生活を！

牧会者、伝道者として、聖書学者、神学者として、幅広くキリストに仕える著者が、時には説教のように、時にはエッセイのように、証しや体験談を交えて神の恵みを語る。

デニス・F・キンロー著
三、四〇〇円＋税

エマオの道で 365日の霊想



編集後記

聖化 51 号をお届けします。今回は、日本イエス・キリスト教団香登教会の工藤弘雄先生が評議員会でご講演くださった「今後の JHA—方向性と発展性」を掲載いたしました。とても刺激的な、今後の JHA を予感させる内容です。チャーチ

オブ・ゴッド川崎教会の古波津保秀先生の真実な証しは心打たれます。出版予定の「ホーリネス・メッセージ集」は朗報です。好評であった『ホーリネス—牧師 15 人のメッセージ』が絶版になっておりますので、出版が待たれます。これから原稿の依頼など準備が始まります。（矢木良雄）

聖化 No.51 2012 年 4 月 25 日発行

発行 日本聖化協会 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 電話／Fax 03 (3293) 5130
E-mail kjha1985@aria.ocn.ne.jp URL http://jha.christ.gr.jp/ 編集担当：矢木良雄／錦織 寛